

## 平成27年度第2回 松伏町子ども・子育て支援審議会 会議録

- 日時 : 平成27年11月11日(水) 午後3時～5時
- 場所 : 役場本庁舎第二会議室
- 出席委員 : 石井 貞人、岡田 直人、庄野 紀美子、根岸 明美、松丸 すみえ、  
村松 文江、若盛 清美、若盛 正城(8名)
- 欠席委員 : 小島 朗、宮本 慶太
- 事務局 : 梅原 秀人 福祉健康課長  
森 岳夫 福祉健康課主幹  
中野 祐子 福祉健康課主任  
並木 友美 保健センター保健師
- 議事 : 次第のとおり
- 配布資料 : 次第のとおり

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

- (1) 松伏町子ども・子育て支援事業計画における提供体制の状況について 事務局より説明

### 【委員から】

- ・病児保育事業について、26年度も27年度も事業の実施はないが、今後実施する予定はあるか？保護者の要望が多いので確認したい。(石井委員)
- ・必要としている保護者は多いと思う。県内では緊急サポートセンター埼玉と委託している自治体が多いが、松伏はどうか？(庄野委員)

### 【事務局から】

病児保育事業について、予算の問題もあるが、今後実施する方向で検討したい。病児保育は医療機関との連携が必要になる。病後児保育については、事業の委託という方法も検討する。

- (2) 保育所等の入所申込み状況について 事務局より説明

【事務局から】来年度は1歳児が待機になる可能性があり、待機児童解消までの期間、1歳児担当保育士に対する補助(4:1保育に対する補助金)をやめることも検討している。

### 【委員から】

子ども・子育て支援新制度を国が広報していて、それが影響しているかもしれない。待機児童のない町になるほうがいい、そのためにどのような方法があるか、この審議会で議論し、町に要望していきたい。(若盛会長)

(3) 来年度の教育・保育施設の利用定員及び入所の申込みについて 事務局より説明

※平成28年度の各施設の利用定員について、27年度と同数で設定することを事務局より報告

4 その他

【事務局から】

次回の開催は2月～3月頃、次世代育成支援後期行動計画後期計画の事業の検証等を行う予定。

【各委員から】

- ・就学時健診時に保護者同士の交流をしてもらったところ、大変評判が良かった。また、養護教諭との会話で熱がある子を迎えに来ない保護者が減ったと話していた。学校では、朝食を食べていない子に保健室で補食をだし、教室に戻したりすることもある。保護者の生活力、教育力が子どもの学力に影響する。(岡田副会長)
- ・病児・病後児保育が町にないため、友人に預けたり、とても大変だった。事業の実施を検討してほしい。(村松委員)
- ・子どもがいて、就職活動をするのは大変。病気の子どもは親が見るべきと考えている。育児をしながらの仕事は、急なお休みがあったり、お迎えに行くために早めに仕事を切り上げたりしなければならず、そういったことに理解のない会社がある。もっと社会全体がやさしい世の中になってほしい。(根岸委員)
- ・毎日いろいろな相談を受けていると、みないろいろな悩みを抱えて育児をしていることがわかる。昔のように近所で協力し支えあって育児ができればよいが、それに変わる社会全体で子育てするしくみが必要だと思う。(庄野委員)
- ・園で保護者と接していると、子どものいいなりになっている人がいる。子どものいいなりになるのと子どもを尊重することは違うので、きちんと親に説明し、理解してもらおうようにしている。(松丸委員)
- ・子どもが病気で仕事を休んだらクビになったというのが実際にあった。母親は泣いていた。病児保育については使い方のバランスを考えていけばいいのかなと思う。(石井委員)
- ・中小企業の集まりがあり、女性が安心して働ける職場にしてほしいと要望した。また、1歳児の6：1保育はとてもショックだった。それぞれの園の考え方で経営をしていく必要があると思う。(若盛清美委員)
- ・地域の子ども・子育て支援について、家庭のあり方、施設のかかわりなど、子どもが自分で育っていけるように子ども主体で考える「子育て支援」について考えていきたい。また、事務局は事業の進捗を報告する際は、数字だけではなくてやったことでどういった効果があったかが大事なのでよろしくお願いします。(若盛会長)

5 閉会